

平成 29 年度第 1 回尾張旭市健康推進委員会 議事録〔要旨〕

【開催日時】

平成 30 年 2 月 6 日（火）

開会 午後 1 時 30 分

閉会 午後 2 時 40 分

【開催場所】

尾張旭市保健福祉センター2 階 201 会議室

【出席委員：11 名】

安井 徹郎（瀬戸旭医師会）

古峪 秀樹（尾張旭市歯科医師会）

加藤 富士子（尾張旭市薬剤師会）

小川 浩平（旭労災病院）

瀨瀬 陽次（尾張旭市自治連合協議会）

相羽 かよ子（尾張旭市地域婦人団体連絡協議会）

稲山 映子（尾張旭市健康づくり食生活改善協議会）

太田 眞智子（愛知県健康づくりリーダー連絡協議会瀬戸支部）

土山 典子（瀬戸保健所）

加藤 泉（公募委員）

浅野 憲治（公募委員）

【欠席委員：3 名】

松浦 哲生（公立陶生病院）

坂本 真理子（愛知医科大学）

吉田 与十六（尾張旭市体育協会）

【傍聴者】

なし

【出席した事務局職員】

若杉健康福祉部長、臼井健康課長、加藤課長補佐、磯村庶務係長、宮下副主幹
（健康都市推進室）川本室長補佐、北爪主事

【議題】

- (1) 尾張旭市健康都市づくりの取り組みについて（健康都市推進室）
- (2) 平成 29 年度保健事業の概要報告について

【会議の概要】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 委員長、副委員長の選出
- 5 議題
- 6 その他

1 開会

<欠席委員、会議公開についての報告等>

2 あいさつ

3 自己紹介

4 委員長、副委員長の選出

<委員長に安井委員、副委員長に古峪委員が決定>

5 議題

(1) 尾張旭市健康都市づくりの取り組みについて（健康都市推進室）

<市健康都市推進室より資料に基づき説明>

(A委員)

あさひ健康マイスターでは年間150ポイント獲得すると表彰対象となるそうだが現在のところ達成者の実績は何名ぐらいか。

(事務局)

年度途中なのでまだ実績は出ていないが、マイスター手帳の配布数は昨年度の約500部に対し、今年度は現時点で約10,000部となっている。150ポイント達成者はかなり増えるのではないかと予想している。

(B委員)

世代別の配布状況はどうなっているか。

(事務局)

マイスター手帳は主に市で開催する各種講座、スーパーの店頭、駅などに置いていることから、40代から高齢者の方への配布が中心となっている。若い世代に対する配布数が少ないため、来年度は子どもや親子で取り組めるような事業を追加するなどリニューアルを検討している。

(B委員)

子どもの健診時などに配布すれば若い世代への配布数も増加するのではないか。

(事務局)

若い世代が参加する健診や講座開催時に配布できるよう今後調整していきたいと考えている。

(A委員)

市が開催する事業では参加時にスタンプを押してもらえるが、例えば市の主催行事以外の自治会の事業に参加した場合はどうしたら良いのか。市民活動課まで出向く必要があるのか。

(事務局)

自治会の活動などに参加した場合は、自治会でスタンプを押すことは困難なので参加者自身で活動した日付を記入できることとしている。

(2) 平成29年度保健事業の概要報告について

<事務局より資料に基づき説明>

(B委員)

「あたまの元気まる」に関心があるが、軽度認知障がいがありそうな人にはどのような対応をしているのか。

(事務局)

検査結果を保健師が説明し、日ごろ気をつけている生活習慣を確認して、日常的に頭を使うことが必要な人については、その人に合った活動を一緒に考え継続するよう保健指導を行っている。また、自宅に籠りがちな人については、健康課が地域で実施している筋トレ事業の自主グループなどを紹介し、定期的に外にでる機会を設け、生活習慣の改善を図るよう保健指導を行っている。検査後、3ヶ月から半年後に再受検するよう勧奨するなどしてフォローアップしている。検査の結果、予防の段階を過ぎて治療が必要と思われる人には受診を奨めている受検者の多くが予防段階のため生活習慣の改善を図ることが主体となっている。

(B委員)

数年後には認知症となる人が大幅に増加すると予想されている。受検者の追跡は必要ではないかと思う。

(事務局)

認知障害の程度によっては介護認定が必要な場合もあり、その場合は家族に状況を説明し、社会福祉協議会の地域包括支援センターに情報提供し、定期的に関わってもらおうようにしているケースもある。

(C委員)

積極的に検査を受ける人はあまり問題ないが、本人が気づかないことが問題だと思う。

(D委員)

今年、脳ドッグの申込をしたが倍率が高く抽選にはずれた。倍率を考えて定員を増やして欲しいと思う。

(事務局)

脳ドッグは、保険医療課が担当している。委員が言われるように定員が少ないと多くの方からお叱りの言葉をいただいているが、医療機関の受入体制にも限界があるため、定員増の要望に応えるのは難しいのが現状である。公立陶生病院の新病棟が今年3月に竣工し、5月から診療が始まるので、受入人数の拡充を期待している。抽選にはずれた方には大変申し訳なく思っている。

(D委員)

年齢、回数に制限があるため、機会を逃したら受けられない。とても残念に思う。

(事務局)

脳ドッグの定員に制限があることから、脳ドッグの抽選結果通知に「あたまの元気まる」受検の勧奨チラシを同封しPRしている。是非、「あたまの元気まる」に参加して欲しい。

(D委員)

軽度認知障がいという名称に抵抗がある。もう少し元気の出るような名称を検討して欲しい。

(E委員)

資料に「あさびー予防接種ナビ」の登録者数があるが、率としてはどれくらいか。

(事務局)

年齢の幅があるので登録割合はわからないが、予防接種のスケジュールを見ると生後2ヶ月から1歳までの間に受ける予防接種が多いことから3ヶ月健診前後までに登録される方が多いと思う。登録開始後は月に約300人、最近でも約50人の登録があり登録者数はコンスタントに伸びており、かなり活用されていると思う。新生児訪問、健診案内などの機会に積極的にPRしており、今後もより活用されるよう利用者アンケートをとるなどして利用者の声を反映させたいと考えている。

(E委員)

どこの部署が脳ドッグを担当しているかなど市民から見ると非常にわかりにくい。健康に関することはすべて健康課なのかと思ってしまう。

(事務局)

適切に担当課につなげることができよう関係部署で連携を密にするので気軽に問い合わせさせていただきたい。

(F委員)

60、70代の人から子育て世代のときにもっと健康に気をつけていれば良かったとの話をよく聞く。自分もちょうど現在子育て世代にあたり、乳がん検診、子宮頸がん検診などの対象年齢の拡大ができないのかと思っている。若い世代に対する健康に関する取り組みについて伺いたい。

(事務局)

がん検診は主に国の指針にも基づいた年齢区分で実施している。市独自のがん検診として、18歳から39歳までの人を対象にした大腸がんの集団検診、瀬戸旭医師会に協力による前立腺がん検診を実施している。また、若い世代に対する健診としては、18歳から39歳までの人を対象に血液検査、身体測定、診察などの一般健康診査、希望者に歯科健診、年齢条件はあるが骨粗しょう症検査などを内容としたヤング健診を実施している。ただ、働く人が増えていることもあり、受検者は伸び悩んでいる。就学児健診でのPR、土・日曜日での開催、託児つきの健診後指導などを実施しているが効果がでていない。今後も受検者が増加に向けた対策を検討していきたいと考えている。

6 その他

閉 会